

視察報告書

視察の調査結果について、下記の通り報告します。

令和5年2月15日

光市議会議長 木村信秀様


光市議会 議員 木村信秀

(会派 かいこうに同行)

記

- 1 調査年月日 令和5年1月27日(金) 13:30～15:00
- 2 調査市等 周南東部環境施設組合 リサイクルセンター「エコぱーく」
- 3 調査結果 別紙のとおり

調査結果

日 時	令和5年1月27日（金） 13：30～15：00	 <p>(会派 かいこうに同行)</p>
調査市等	周南東部環境施設組合 リサイクルセンター「えこぱーく」	
調査事項	組合の運営状況の把握と施設の現状確認	
説明者	周南東部環境施設組合 福田事務局長	

〈概要〉

周南東部環境施設組合は、昭和54年6月に組合を設立して以来、光市と下松市の家庭から出る不燃ごみの適正処理、ならびに施設の維持管理を行っている。リサイクルセンター「えこぱーく」（以下「えこぱーく」という。）は平成20年4月から稼働している。

えこぱーくは限りある資源の有効活用を積極的に推進するとともに、埋め立て処分量の減少に努め、埋立地の延命化を図ることを目的としている。



この施設ができる前は、後畑不燃物処理場で埋立処分をしており、後畑不燃物処理場は昭和58年から運用を開始し、これまでに第1期～3期と建設され、1期は平成4年に満杯となり、現在、2期と3期を併用して使用している。机上計算ではあるが、令和28年までは使用できる見込みである。



〈課題〉

■ 埋立処分場の延命化

※ 仮に新たな埋立処分場を選定する場合、多大な時間を要することが想定される。

〈所感〉

■ 作業の現場を視察して、改めてごみの処分方法や今後の4Rとともに施設の環境整備について10年後、20年後、またその後どのように進めていくのかを考えさせられました。分別についても複雑多岐にわたり、高齢化する現在本当に現状の処分方法のままでも良いかも検討しなくてはならないことや、早急に検討しておかなければ処理できない問題が山積していることを強く感じた次第です。